

審 査 の 結 果 の 要 旨

氏 名 ウォン ビジャヌエバ ホセ ルイス

本論文の目的は、近年、欧州、アジア、南米、アフリカ等の世界の諸地域において国境を超えたマクロな国際的地域統合の枠組みが展開する中で、その枠組みのもとで進行しつつある国境地域の地域発展のプロセスを検討することである。

本論文は、このような問題意識のもとで、具体的には、下記の5点を研究目的としている。

1. 国境地域の発展の観点から世界の諸地域におけるマクロな国際的地域統合の枠組みを評価する。
2. 国境地域の地域発展に関する総合的評価システムを構築する。
3. 総合的評価システムを用いて、南米を対象として、マクロな国際的地域統合の枠組みのもとで展開しつつある国境地域発展について評価し、総合的評価システムの有効性を検証する。
4. 南米における国境地域発展のプロセスを詳細に検討し、今後の国境地域発展のための政策的提言を行う。

上記の目的のもとで、本論文の構成は以下の通りである。研究の目的と背景について記述した第1章に続いて、第2章で国境地域の発展のプロセスと政策に関する理論的並びに実態分析に関する国際的な既往研究の整理を行なっている。マクロな国際地域統合の観点から国境地域発展プロセスを総合的に評価する枠組みに関する研究は十分でない。この結果、既往の研究では、マクロな国際地域統合とミクロな国境地域の統合の観点から見た国境地域発展のプロセスが十分に解明されておらず、この問題を理論的に構築して総合的評価システムのもとで、マクロな政策分析並びにミクロな地域分析を通じて解明しようとする本研究は優れた新規性を有している。第2章では合わせて、既往文献のシステムチックな分析を通じて、国境地域発展プロセスに関する理論的評価枠組みを構築している。第3章では本研究の研究手法と研究枠組みについて論述している。本研究のシステムティックな文献レビューを通じての理論構築、国際的地域統合機関の政策分析、詳細なフィールド調査を組み合わせた研究方法きわめて新規性

の高い研究方法として評価できる。第4章では、世界の諸地域で実際に展開されている国際的地域統合枠組み（100の枠組み）を抽出した上で、それらの国際的地域統合枠組みの政策文書のテキスト分析により、それらの枠組みの国境地域発展に関する取り組みを比較分析するとともに類型化を図るという他に類例を見ない試みを行なっている。第5章では、第4章で高く評価された国際地域統合枠組みの中で南米地域のCANとMERCOSURを具体的に取り上げて、国境地域統合の取り組みを詳細に検討するとともに比較検討を行なった。

第6章では、第5章において典型的な国境地域統合の取り組みとして評価されたINPANDESプログラムを取り上げて、当該プログラムの実態と効果について丹念なフィールド調査を実施し、第2章において構築した国境地域発展に関する総合的評価システムを適用することで、当該評価システムの有効性を実証的に検証するとともに、同プログラムの有効性と課題についての評価を行った。

第7章では、研究で得られた知見を統合することで研究全体の結論を提示するとともに、合わせて、得られた知見をもととして国境地域の統合的發展を進めていく上での、マクロレベルの国際地域統合の観点、ミクロレベルでの国境地域の統合的發展のあり方に関して、マクロ・ミクロ両面から提言を行なっている。

本研究は、上記のように、独自の理論枠組みと詳細な実証分析のもとで、マクロな国際地域統合統合枠組みのもとの国境地域の発展プロセスに関する独自の総合的評価システムを構築し、南米地域を対象として同システムの有効性を実証的に検証することで、国境地域の統合的發展プロセスを具体的に解明し、今後の政策展開に向けての具体的な方向性を示したという点で、新規性のきわめて高い研究であり、学術的に優れた価値を有していると同時にきわめて有益な政策的含意を提示するものとなっている。

よって本論文は博士（工学）の学位請求論文として合格と認められる。